公益社団法人
大阪府看護協会

府民と看護をつなぐ

vol.
25

テアテ

かんごちゃん
「看護の日」キャラクター
大阪府かんごちゃん

特集1

自宅療養に向けた病院の支援

特集2

あなたがあなたらしく生きられるように

いまからはじめる人生会議

［ ACP ］

＼新シリーズ／

病院以外で働く看護師さん

特集1

自宅療養に向けた病院の支援

なぜ??

入院する前から退院の話？

入院が決まったと同時に退院の話があると、戸惑う方が多いのではないでしょうか。
超高齢社会で2040年には全国での入院患者数がピークになることが見込まれています。
病院のベッド数は限られているので、治療が必要な方が安心して入院できるように、
また、いつでも救急車による搬送を受け入れられるように、
病院の機能を維持することは社会的な役割としてとても大切です。
そのため、**治療が落ち着いた時点で、退院に向けて地域の他の病院や介護保険の事業所とも協力して、自宅療養への体制作りが進められています。**

介護が必要になる前から どのように暮らしたいかを考えましょう。

病院では、退院へのサポートは入院時より始まっており、入院が決定したときから生活状況の把握をします。また、介護を受けられていた方は地域のケアマネジャーやかかりつけ医師、訪問看護師、行政などと退院が円滑に進むよう連携を取り合っています。
病院には退院に向けての相談員がいますので、退院後の生活で何か心配事があれば、早めに、気軽にご相談に行かれることをお勧めします。日頃から自分らしく生きるうえで、介護が必要になる前から自分はどこでどのように暮らしたいかを考えておくことがとても大切です。

●写真提供：一般社団法人 大阪府訪問看護ステーション協会

病院の支援の事例として、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の独居男性が緊急入院からわが家に帰るまでの約2ヶ月をご紹介します。

突然の難病発覚で緊急入院「どうしても自宅で暮らしたい」を叶えた医療・福祉にかかわる多職種で行う退院支援

大阪急性期・総合医療センター 脳神経内科病棟

Sさん（患者）　70歳代（独り暮らし）・ALS（筋萎縮性側索硬化症）　患者家族：弟

Sさんは、半年前にふらつきがみられ、その後うまくしゃべれない、呼吸がしんどい、四肢の筋力の低下を自覚され近くの医療機関を受診。精密検査が必要ということで当センターを紹介され、緊急入院となりました。

1. 入院1週間後　初回退院支援カンファレンス

入院前の生活状況、介護支援、家族背景や入院の状況を多職種で共有し、退院後の生活を見据えた支援について話し合いました。

多職種での
カンファレンスの様子

2. 入院2週間後　ALS（筋委縮性側索硬化症）との診断

医師より、今後、気管切開や胃ろうなどの延命処置をどうするか、転院するのか、自宅に帰るのか、療養場所など家族と話し合ってほしいと伝えられました。

3. 入院後19日目　退院後は転院あるいは施設への入所方針

看護師が今後についてSさんに聞いてみると、「身体に傷をつけたくない。ご飯を食べられないのなら気管切開は望まない。80歳まで生きられたらと思うけど長生きは望んでいない。家に帰りたい。」と強く希望されました。
しかし弟さんの意向として、安全面から自宅で生活することは難しく施設への入所が良いと考えていると返事があり、近日中に入所調整の方向で検討することになりました。

4. 入院後20日目
方針転換　自宅療養を目指すことに

看護師と理学療法士がSさんの気持ちを傾聴すると、自宅療養への強い覚悟がありました。看護師はその意向に寄り添いたいと考え、医師に相談し多職種カンファレンスを実施しました。

あらゆるリスクを理解した上で本人が自宅を希望するのであれば、サービスを整えて自宅療養も可能。
大阪難病医療情報センター看護師

現状、自身で人工呼吸器のマスクを装着できないため、自宅療養は厳しい。ただ、患者の意向を尊重し自宅療養を目指したい。
担当看護師

自宅療養に向けて調整をすることは可能。
ソーシャルワーカー

Sさんの希望

危険とは思うけど、家で倒れて死んでしまったとしてもそれが本望。

安心という点では施設や病院が良いが、リスクが上がることを理解いただいたうえで自宅に帰る調整を試みることは可能。ALSは、呼吸困難が悪化したり動けなくなる進行性の疾患であり、自由に動いたりして過ごせる時間は限られているため、本人がどう生きたいか気持ちを尊重するのは重要。
医師

結局は本人次第、家に帰る方向で考えよう。
弟

退院に向けての訓練と日々話し合い

退院支援カンファレンスを重ね、何回も話し合いを行い、現状の日常生活動作と退院時の課題を検討。呼吸器のマスクの装着が自力では難しいので、訪問看護師のサポートをどこまで受けられるか、トイレまでは手すりを設置すれば歩行は可能か、6畳一間に介護ベッド、呼吸器、ポータブルトイレが設置できるかなど、いろいろ課題が出てきました。その日から呼吸器のマスクの装着やトイレまでの歩行など毎日訓練をしました。上手くいかないもどかしさや意欲の低下が見られ、リハビリを拒否される日もありました。
リハビリ訓練時や他職種訪室時、看護師は毎日30分～1時間訪室し、「自宅療養に向けてお互い頑張りましょう」とみんなで励まし、声をかけあいました。

Sさんは、自宅への思い入れがあり、誰が何と言おうと帰りたいと思っていることを伝えてくれました。

嬉しいねん、帰れるのが。もともと母に買ってあげた家だけどすぐ亡くなり、もう一人の弟も亡くなった。二人とも病院でガリガリになって死んでいった。そんな姿見るのは辛かった。もう自分しかおれへんし、住み続けてあげなあかんやろ。一人になった時から決めてたんや。台風とか地震とか来たとしてもこの家で死ぬって。

5. 入院後1ヶ月目
自宅へ帰る方針が決定

Sさん、弟さん、病院スタッフに加えて、かかりつけ医師、訪問看護師、ケアマネジャーも参加し、退院前カンファレンスを行いました。入院中の状況や現在の日常生活動作を共有し、退院後の療養生活にかかわる注意点、緊急通報システムの方法、人工呼吸器の管理などについて話し合いました。居住スペースも2階から1階になるので、家の構造、生活の動線、ベッドなどの介護用品の配置については後日退院前訪問を行い、確認することになりました。弟さんは、「家に帰りたいという兄の意思を尊重したい」と最終的には自宅療養の方針で納得されました。

6. 入院後1.5ヶ月目
退院前訪問

Sさん、弟さん、看護師、当センターの作業療法士、訪問介護管理責任者、福祉用具専門相談員で退院前訪問を実施しました。ベッドや呼吸器などの設置場所を決め、家具等の移動を検討。Sさんの移動範囲を確認し手すり等の設置の検討、呼吸器管理の方法や緊急通報システムの共有を行いました。

7. 入院後2ヶ月目
退院！！自宅療養スタート

退院2週間後に病院看護師が訪問看護師と退院後訪問に伺いました。

大阪急性期・総合医療センター看護師　田渕 美優さん

手すりをしっかり持って歩行し、トイレに行くことができていますが、帰宅後一度転倒されたため、夜間のみポータブルトイレを使用しているとのことでした。また、訪問リハビリは利用せず、近所の整骨院まで車いすで通院しているそうです。日中も呼吸器を使用し不便は感じておらず、明らかな日常生活動作の低下は見られませんでした。「家に帰りたい」というSさんの希望が叶い、その希望に沿って訪問看護師やケアマネジャーさんたちが可能な限りケアを行っておられ、安心しました。

燈和訪問看護ステーションあかり　西岡 健太さん

ご本人の「不安はあるけど、帰ってきてよかった」という言葉は、何よりの喜びと励みになります。病気の進行とともに様々な苦痛が出てくると思いますが、根本的な解決はできなくとも、辛いことを打ち明けられる癒しの存在になれたらと考えています。

Point!

入院から在宅へ「つなぐ」を大切に

「退院支援カンファレンス」ってなに？と思われるでしょうが、病院では入院時から多職種や地域と連携をとり、入院中に今までの生活や自分の思いなどが中断されないように「つなぐ」を大切に取り組んでいます。もちろん患者さんやご家族の気持ちも変わるので、その都度患者さんやご家族の気持ちを尊重した意思決定ができるように病院の医師や看護師、ソーシャルワーカー、理学療法士などの多職種だけでなく、かかりつけ医師、訪問看護師、ケアマネジャー、その他多くの方々とカンファレンスを行っています。まだまだ先の話と思っていても、もしもは突然訪れます。日頃から「突然何か起きたらどうしたいのか」ぜひとも家族や身近な信頼できる人と話し合ってください。

あなたがあなたらしく生きられるように

いまからはじめる人生会議［ACP］

『人生会議（ACP）』って何？

「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」。あなたが大切にしていることや望んでいること、どのような医療・ケアを望むかを前もって考え、周囲の信頼する人たちと共有する取り組みのこと。
政府は、ACPの愛称を「人生会議」に決定するとともに、毎年11月30日（いい看取り・看取られ）を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日としました。
ぜひこの機会に『人生会議（ACP）』について考えてみませんか？

今回は、実際に人生会議をされた方や施設についてご紹介します。

事例 CASE.1

幼い我が子に「その時」が ― 人生会議が生きる希望に

大阪市立総合医療センター 看護師　堀内 弥生さん

乳幼児期を中心とした小児内科系病棟で小児血液腫瘍内科に入院した幼児の患者とその家族の「人生会議」の関わりについて振り返ります。

Aちゃんのためを思い入院を選んだお母さんの「本当の気持ち」

脳腫瘍で入院したAちゃんは、お母さん・おじいちゃんとの3人暮らしでしたが、おじいちゃんの協力を得ることは難しく、お母さんがひとりで意思決定せざるを得ない状況でした。入退院を繰り返し治療に向き合ってきましたが、悪性腫瘍のため、再発後は苦痛を取り除く治療へと変化していきました。緩和的な治療へ変化した後、一時退院を提案しましたが、お母さんは病院で過ごす方が安心と考え入院を継続しました。お母さんは、Aちゃんの余命をなかなか受け入れられず、Aちゃんは残された短い時間をベッドの上で過ごすことが多くなりました。

Aちゃんとお母さんの希望を叶えるために、看護師の声かけで人生会議

看護師はお母さんの気持ちに寄り添いながら、お母さんがAちゃんにしてあげたいことやAちゃんの希望に沿えるように、医師・看護師・保育士・社会福祉士などの多職種や子どもサポートチームを交えて何度もカンファレンスを開催しました。このカンファレンスそのものが「人生会議」と言えます。

お母さんは、Aちゃんが好きなアンパンマンミュージアムや動物園に行きたいという希望があるものの、外出することに不安を感じておられました。そこで、病院から車で15分ほどの距離にある小児緩和ケアを目的とした施設である「TSURUMIこどもホスピス」※で過ごすことを提案しました。

※TSURUMIこどもホスピス

生命を脅かす病気（Life-threatening conditions＝LTC）の子どもとその家族のための、小児緩和ケアを目的とした施設。病院ではなく、日中利用や宿泊の場として利用が可能で、重い病気であっても本来享受すべき学びや遊び、憩いなど、同世代の子どもと同じような体験をしてもらえるよう、医療現場のみなさんとともに、子どもや家族がより深く生きる機会をつくりたいと考えています。

● 写真提供：TSURUMIこどもホスピス

お出かけが叶い
Aちゃんとお母さんに戻った笑顔
2人の希望で最期は過ごし慣れた病棟へ

TSURUMIこどもホスピスも快く受け入れていただき、訪ねる回数が増えるにつれてお2人にとって安心できる場所になっていきました。
Aちゃんとお母さんのお出かけも叶い、最期の時が近づきました。当院には緩和ケア病棟があり、緩和ケア病棟で過ごすことの提案や見学もしましたが、Aちゃんとお母さんは、過ごし慣れた病棟で最期を迎えることを希望しました。病棟看護師はお2人が安心して過ごせるように関わり、お母さんの希望に沿った環境での看取りとなりました。

人生会議ココがポイント！

「どう死ぬか」ではなく「どう生きたいか」のプロセスを大切に

今回、担当看護師は、Aちゃんが残された短い時間をベッドの上で過ごしていることに対し、「Aちゃんはどうしたいのか、何がしたいのか」という思いを大切にしてあげたいと何回も母親と話し合い、不安でいっぱいの母親の気持ちに寄り添うことで、Aちゃんと母親の意向を尊重した意思決定プロセスを実践することができたと思います。母親の今後の生活のことも考えると、大切なプロセスだったと願っています。
人生会議では「どう死ぬか」ではなく「どう生きたいか」のプロセスを大切にしています。人生会議の対象は、年齢や健康状態を問わずあらゆる状態の人が含まれます。

事例 CASE.2

人生会議普及活動として講演会を行いました

社会医療法人きつこう会多根総合病院 ACP 支援コーディネーター　應本 勝美さん

病院で行っている人生会議普及活動。「がん性疼痛看護」と「脳卒中リハビリテーション看護」2人の認定看護師※1がACP支援コーディネーター※2として活動しています。ご要望があれば、地域に出向き「人生会議」について講演会を行っています。

※1 認定看護師
特定の看護分野において専門性の高い知識とスキルを持つ看護現場のスペシャリスト。「実践」「指導」「相談」の3つの役割がある。

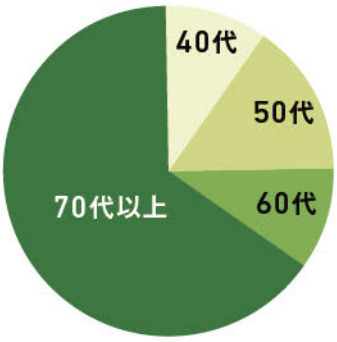
※2 ACP支援コーディネーター
大阪府看護協会が大阪府の委託を受け実施した「ACP支援専門人材育成研修」を修了し、ACP支援専門人材バンクに登録した看護職のこと。

大阪市港区 地域活動協議会主催の講演会

テーマ　「地域で考える人生会議」

参加者20人：男性５人／女性１５人
(70歳以上が65%　最高年齢91歳)

参加者の年齢



講演内容のポイント

- 2人の認定看護師がそれぞれの専門性を生かし、日頃より身近な人と、もしもの際どんな医療やケアを受けたいか話し合う大切さについてお話ししました。
- 人生会議の説明では、吉本興業の小藪さんがポスターになって問題となったことなども話題にあげて、動画※1なども取り入れながらお話しました。
  ※1→P.10をご確認ください。
- 大阪府が発行している人生会議の記録シート※2をお配りし、説明をしながらその場で実際に記入してもらいました。
  ※2→P.10をご確認ください。

講演会参加者の経験談（40代）

母は数年前に脳出血で救急車で運ばれ、数日後症状が悪化し呼吸器が付けられました。その後呼吸器は外れましたが、今も母は寝たきりで意識がありません。あの時、人生会議を知っていたら、家族でもっと母がどうしたいかを考えられたかもしれないです。

最後にみんなで“もしバナゲーム”をしました！

あなたと大切な誰かが「もしものための話し合い（＝もしバナ）」をする、そのきっかけを作るためのゲーム。人生の最期にどうありたいか・・・「価値観」や、自分自身の「あり方」について様々な気づきを得ることができるゲームです。

講演会参加者の声

参加者全員に次回も参加したいとのお声をいただきました！

- 人生について色々勉強になりました。また、聞きたいです。
- 10年先が分からないので参考になりました。
- 他の方の人生観も聞けて良かったです。
- 楽しい雰囲気で良かったです。
- 家族での話し合いが重要だなと思いました。
- これから不安なことが多いです。少しでも楽しく暮らせれば幸いです。
- 家族と話し合うことが大切ですね。
- 興味深い内容で楽しく学ぶことができました。

普及活動をふりかえって

地域の方々と接することで、人生会議の重要性をより身近に感じてもらえることができ、認定看護師が講演をしたことで、より地域住民の経験に沿った生の声を聴くことができたと思います。日本では、一般市民の普及対象者が高齢者というイメージがありますが、命に関わる病気やケガは、年齢や持病の有無に関係なくすべての人に突然起こる可能性があります。「もしものときに、どうしたらいいか」病気になってから、高齢になってからではなく、日頃から家族で話せる身近で当たり前の話題として普及させていくことが必要だと思います。

人生会議について自然と話せる環境を！

人生会議をやってみたいけど、何から始めたらいいの？

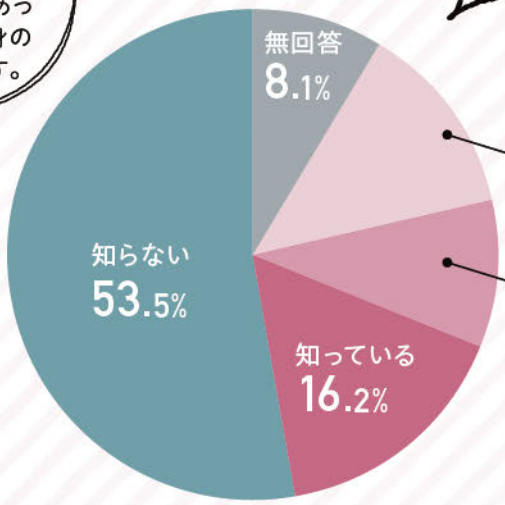
「まちの保健室」※でも人生会議ができます！

みなさんの地域に『ちょっと気になるからだ、心の相談』ができる「まちの保健室」があります。人生会議についても、広く府民のみなさまにお知らせしています。

「まちの保健室」来場者99人に聞きました！
人生会議をご存じですか？

「知っている」「名前だけは知っている」「家族と話し合った事がある」という方・・・ 38%

知らなかった。夫が入院し、今後の医療ケアの選択について医師より説明があり聞かれたことがあった。その体験もあり、自分自身の事は家族に意向を伝えています。



友人と話をして、自分の気持ちを伝えています。

※「まちの保健室」とは・・・
さまざまな不安や悩みを看護職に気軽に相談できる場所。誰もがより健やかに生きるために、人と人がふれあい、より豊かな人生を楽しめるよう、お手伝いしています。

「まちの保健室」の詳細は大阪府看護協会ホームページをご覧ください！

大阪府看護協会ホームページ「まちの保健室」

おうちに居ながら人生会議をスタート！

アニメーションや漫画などで、
おうちで手軽に人生会議を始めることができます！

厚生労働省 「こんな私のストーリー」編

厚生労働省
ホームページ

大阪府より、大阪府看護協会監修の漫画「みんなの人生会議」が公開されています。QRコードをチェック！

漫画PDF

大阪府 2024年9月1日、人生会議のホームページが新しくなりました！

「人生会議（ACP）」を知ってもらうため、
SNSで動画の配信をスタートします！

- 公式YouTube
- 公式Instagram
- 公式X（旧：Twitter）
- 公式TikTok

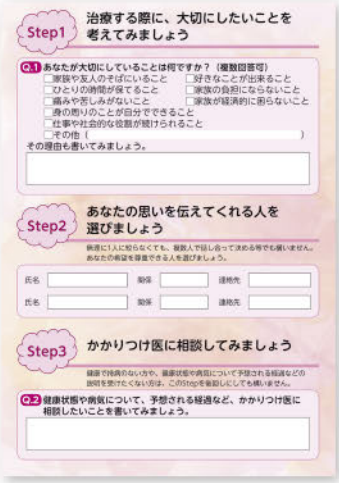
※動画広告配信期間：2024年9月1日から12月31日

大阪府ホームページ
アドバンス・ケア・プランニング
（ACP、愛称『人生会議』）を
ご存じですか？

早速始めてみよう！

毎年11月30日は「人生会議の日」、ご自身の「人生会議ノート」を作成して見直しましょう！

大阪府 パンフレット「だから、今人生会議」（記録シート付）



「人生会議の記録」はステップごとに質問を記載しています。パンフレットを見ながら記入していきましょう。

裏面には、かかりつけ医など医療やケアに関する連絡先を記載できます。
お住まいの市町村窓口にもお問い合わせください。

冷蔵庫など、普段の生活で目につく場所に貼っておきましょう！

パンフレット
PDF

広告

UNIVERSAL SERVICE GROUP

医療・看護・介護の現場でみなさまのご負担を軽減すること
それが、ユニバーサルサービスの願いです。

トータルなリースサービスをご提供。　医療・看護・介護の効率化をご提案。

株式会社ユニバーサルサービス
【本　　社】〒556-0027
大阪市浪速区木津川1-1-14
tel 06-6568-8800　fax 06-6568-8801
【福岡営業所】〒812-0874
福岡県福岡市博多区光丘町1-2-5
tel 092-409-5061　fax 092-409-5062
【四国営業所】〒761-0701
香川県木田郡三木町池戸1550-1
tel 087-899-8607　fax 087-899-8608

https://universal-service.co.jp/

新シリーズ

病院以外で働く 看護師さん

暮らしの中で、病院以外でも看護師さんと触れ合う機会がたくさんあります。このコーナーでは、そのような場所で活躍している看護職をご紹介します。

Vol.1 学校看護師

大阪府内小中学校 看護師介助員 **大田 弘子** さん

急性期病院勤務から学校看護師の道へ

学校における看護師の役割は、吸引など医療的ケアが日常的に必要な子どもたちの学校生活が楽しく安全に過ごせるように、医療的ケアはもちろんのこと、子どもたちがやりたいという気持ちをくみ取って工夫すること。そこに、これまで従事してきた循環器・脳外科の知識、ＣＣＵ（循環器疾患集中治療室）での経験を、安心安全に医療的ケアを行うために活かせるのでは？と思い、この仕事を始めました。

楽しく安全に過ごせるための工夫が子どもたちの成長につながると嬉しい

学校の時間割に沿って授業、教室移動、給食、掃除の時の必要に応じた医療的ケアをタイミングよく考えて行います。その時、子どもの意見や意思を尊重することが大事で、友達とのふれあいの邪魔にならないよう留意して、安心安全に学校生活を過ごせるよう見守ります。また、いつも保護者や先生方とコミュニケーションをとりながら、子どもたちがより楽しく過ごせるように共に工夫する楽しみがあります。

子どもと一緒に決めて、良いタイミングで医療的ケアをすることで「学校が楽しい」という言葉をもらったり、登校日が増えたりすると、やりがいを感じます。また、昨年はできなかったことが、工夫することにより今年はできた時の子どもの自信にあふれた表情や、ふと目が合う瞬間に、この仕事は、「人間の成長」を見せていただけるお仕事なんだと実感しました。

学校看護師になって広がった「ＡＥＤ研修」講師の仕事

大阪ライフサポート協会の「ＡＥＤ指導者講習」を受講したことがきっかけで、小学校でＡＥＤ研修を行っています。子どもたちが学校で勇気を出して一次救命処置をすることで救える命があると知り、自己肯定感が高まるのでは、という思いがあります。また、先生方には学校で起こりうる倒木、地震の際の救急車を待つまでにできることについて、日本救急看護学会で学んだ知識をお話ししています。

テアテ vol.25

発行日／令和6年9月20日　発行人／弘川 摩子　編集・発行所／公益社団法人 大阪府看護協会
〒540-0001 大阪市中央区城見2-2-22 マルイトOBPビル8階
TEL.06-6947-6900　FAX.06-6947-6901　http://www.osaka-kangokyokai.or.jp
※文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

かんごちゃん
「看護の日」キャラクター
大阪府かんごちゃん